

大阪市立北市民病院の民間移譲の事業予定者を決定しました

大阪市病院局では、市民病院の公的医療機関としての機能向上を図っていくための「市民病院の再編・ネットワーク化」の一環として、平成 22 年 4 月に大阪市立北市民病院を民間医療機関へ移譲することとし、平成 21 年 9 月から移譲先の公募を実施してきました。

公募には 2 件の応募提案があり、これらの提案について外部の専門家からなる大阪市立北市民病院移譲先選定委員会における審査を経て入札を行い、次のとおり事業予定者を決定しました。

1 事業予定者

社会福祉法人大阪暁明館（共同応募者：医療法人伯鳳会）

2 概要

- ・現在の建物を解体撤去し、平成 25 年 4 月に新病院の開院を予定
- ・病床数：482 床（一般 298 床・療養 184 床）

提案内容の概要（別紙 1 のとおり）

3 決定理由

募集要項で、選定委員会によって公募の趣旨に適合する提案であると選定された応募者のうちから、最も高い月額賃料を入札した応募者を事業予定者と決定することとしており、選定委員会において公募の趣旨に適合する案として選定された 2 者のうち、社会福祉法人大阪暁明館（共同応募者：医療法人伯鳳会）が、最も高い月額賃料を入札し、かつ募集要項で提示した最低月額賃料 2,773,000 円を上回っていたため、事業予定者と決定したものです。

社会福祉法人大阪暁明館（共同応募者：医療法人伯鳳会） 12,556,000 円

大阪市立北市民病院移譲先選定委員会の概要（別紙 2 のとおり）

提案内容の概要

地域の医療水準をより向上し、地域貢献できる病院を創設するために、大阪暁明館病院の現有の病床数に加え、大阪市から移譲される 150 床を活用し、大阪市立北市民病院跡地に新病院を開院する提案である。

基本方針は、「地域住民に安心」、「安定した生活」を享受していただくに足る医療展開を骨子とし、「医療水準の向上」、「2次救急医療の提供（実質 2.5 次対応）」、「小児・産婦人科医療」、「終末期医療」、「地域医療連携」の推進を図るものである。

平成 22 年度に現在の北市民病院の建物を解体撤去し、平成 23 年 4 月から新病院の建築に着手し、平成 25 年 4 月に新病院の開院を予定している。

医療機能の概要

診療科目	一般内科、内分泌内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、神経内科、外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、眼科、形成外科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科、小児科、産婦人科、耳鼻咽喉科、救急部、緩和医療
病床数	482床 一般病床：298床（緩和ケア病床24床含む） 療養病床：92床 回復期リハ病床：92床
救急体制	24時間365日受入体制 2次救急医療の提供（実質2.5次対応）
外来診療	月曜日～土曜日（祝日及び年末年始の休日を除く） 午前診察：9：00～12：00 午後診察：15：00～18：00（土曜日は午前診察のみ）

施設の概要

構造	鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造） 地上11階
建築面積	2,295㎡
延べ床面積	21,535㎡
駐車台数	90台

※ 内容については、今後の事業予定者との協議によって、一部変更される場合があります。

大阪市立北市民病院移譲先選定委員会の概要

外部の専門家による選定委員会を計4回開催し、応募された提案についてさまざまな角度から分析を行い、厳正に審査、検討して、公募の趣旨に適合する提案を選定した。

(選定委員会の構成)

- ・組織 地方財政、公的医療、地域医療、経営、法律の専門的な知識を有する外部の有識者
- ・委員 伊多波 良雄 (委員長) 同志社大学経済学部教授
石見 徹夫 此花区医師会副会長
種田 ゆみこ 公認会計士
荻原 俊男 大阪府立急性期・総合医療センター院長
小山 操子 弁護士

(審査結果)

応募のあった2法人について、総合的に審査をした結果、大阪市立北市民病院移譲先選定における公募の趣旨に適合する提案をした者として、両法人とも適格である。

(経過)

平成21年8月5日 第1回選定委員会

(委員長の選出、北市民病院民間移譲にかかる概要聴取)

9月7日 第2回選定委員会 (公募概要及び審査基準の検討)

9月28日 募集要項配布

10月16日～10月22日 応募登録受付 (6件)

11月30日～12月9日 応募書類受付 (2件)

12月16日 第3回選定委員会

(書類審査、応募者によるプレゼンテーション)

平成22年1月7日 第4回選定委員会 (適合案の選定、審査結果報告)

〃 入札により事業予定者を決定



外観完成予想パース

北市民病院及びもと北市民病院看護師寮 位置図

